

## 御清水 月見町 商店街活性化計画

市役所を中心とした「御清水、月見町、幸町、緑町」に 既存の食堂&飲食店&旅館&お土産の民間資本主導の「食をテーマにした 巨大な道の駅」を 作ってみませんか

将来への、実現可能な夢 喜多方の花街であった 市役所周辺地区の活性化について

昭和の御清水や月見町地区は 料理屋がたくさんあり 芸者さんもいて 每晚 近隣の農家の人や 商店街の旦那さんたちが お酒を飲みながら 三味線の音色にあわせて 歌を歌ったり 政治の話題で論争したり 無尽で 地域の情報交換などをしていました。私が子どもだったころは、芸者さんも100人近くいました。スナックなども、すぐ賑わって 酔っ払いも 多く歩いていて賑やかでした。

会津若松は、武士文化でしたが 喜多方は、町民文化として 月見橋のたもとまで 田付川を 物産を運ぶ船が あったとも言われています。御清水には、商売の神様「お稲荷様」があり 月見町には「金比羅神社」があり、数多くの「屋敷稲荷」が 商家や料理屋などに ありました。私の住む月見町も、昔の写真をみると 料理屋 置屋のある道路の両端には、堀が流れ 堀沿いには たくさんの桜の木がありました。

市役所の隣には、御清水公園があり「赤い鳥居のお稲荷様」「会津藩の水場であった御清水の池」もあります。

- 1) 喜多方市の中心部（市役所周辺）にある 月見町地区には 金比羅神社があり お稲荷様のある御清水地区とともに 喜多方地区の伝統ある花街でした。特に月見町地区は、広い道路 田付川の清流とともに 空地の多い「ある意味、開発には非常に魅力的」な土地であり、全国の有名な観光地のように 田付川の河川敷を利用した観光開発が期待できます。また 全国的に見ても 古くから食文化の発達した土地には、街の氏神様（神社）があるのですが 金比羅神社もあります。加えて、付近には全国的に有名な「まこと」「坂内」「あべ」の御三家といわれるラーメン店が点在し、宿泊施設としては「あづま旅館」「グリーンホテル」、近くには土産品購入に便利な「河京」「若喜商店」、店主が地酒に詳しい「きねや酒店」などがあり、夜間営業している市役所周辺の「飲食店」と協力して、もう一つの代表的な「生そば」使ったメニューの開発、米沢牛や稲庭うどんなどをネットで仕入れて 食べることができるようになると、おいしい地酒と合わせて「食文化」に限れば 若松を超える「昼食のたべられる食のスポット」になる可能性を秘めています。加えて 御清水や月見町には、会津若松にない「日中飯盛山系の、美味しい地下水」が あります。 駐車場としては大型バスも止められる市営駐車場 河京や市役所の駐車場などがあり、大型車も不自由なく駐車できるので 開発の仕方によっては 若松から裏磐梯にぬけるルートにある「会津を代表する、食のワンダーランド」としての可能性を秘めていると考えられます。

2) また、喜多方市の地理的状況が、数百万人の観光客が訪れる「裏磐梯」と直結しているという利点を考えると 会津若松の飲食店より、近くに大型バスの止められる駐車場のある 御清水や月見町地区のほうが、食の観光客を呼び込める可能性が高いと考えられ、京都の鴨川河川敷のように 田付川の河川敷 土手の道路等を「お散歩ロード」として きれいに整備すると 郵便局近くの駐車場や西四ツ谷の駐車場から 田付川河川敷を散歩しながら食事にこれるといった「新しい周遊型の食の観光の拠点地区」として提案できるという夢のような開発プランも考えられます。 また、喜多方ラーメン以外の 昼の飲食利用が増えて「街の中の食の駅」として 市役所周辺地区が認識されれば、今度は、若松駅周辺のビジネスホテルに泊まっている「観光客」が 喜多方へ「夕食と地酒のみ」に JRなどを利用して、喜多方に来るといった利用も増えると思います。 もちろん、塩川方面や西会津方面への汽車時間にあわせての送迎なども考えなければなりません。 そうなれば、喜多方で「飲食店」を開こう、観光客を相手に、「手作りの商品」を売ろうといったような「若手の商売人」の移住も 増える可能性がでてきます。 5Gの時代になると、地域間の距離がなくなりますから、会津若松の5G実験都市と協力して、コロナ後の新しい喜多方の展望が開けると思います。

### 3) 御清水公園の利用方法について

御清水公園を、いつでも利用できる 喜多方市の中心にある「イベント広場」として整備します。 といっても、難しいわけではありません。 水道や下水や電気のコンセントを整備して、簡単にいつでも、屋台の店が開店できるようにします。 そうすれば、観光客の多い時期に 雄国の生そばなど 喜多方の「そば自慢」の人たちが 店を開けます。 冬祭りの店舗の常設化です。 そうすれば、御清水公園で そば粉100%の「生そば」を観光客に食べてもらったり 農家の人 が 観光客を相手に 自由に 野菜や漬物などの販売ができます。 日中線跡地の「桜の時期」「5月の連休」「夏祭り」の時期などに 御清水公園で 簡単に ふるさと屋台村ができます。

今、喜多方市で 一番に考えなければならないのは、喜多方の「米や農産物」を どう「直売」という形で 売るかという事です。 コロナ後の新しい生活の時代は、感染症予防の為に 自家用車で喜多方を訪れる人が増えるはずですから、美味しい喜多方の米を買ってもらったり アスパラやトマトなど農産物を販売することができると思います。 それが、喜多方の中心部でできたら きっと新しい地域活性化になると思います。 三密のない、過疎地の喜多方だから きっとできると思います。